本日のまとめ

- 肺癌術後に誤嚥性肺炎を繰り返した一例を報告した。
  咽頭・喉頭機能の低下とともに、下気道のクリアランス能力の低下が重要な因子と考えられた。

- 頭頸部領域悪性腫瘍に対する全身麻酔下手術における米国の術後肺炎の頻度は約6%であり、当院のデータも同等と考えられる。

- 悪性腫瘍における術後肺炎の関連因子としては、高齢、やせ、慢性肺疾患、併存症、有茎・遊離皮弁再建など複数の因子が複合的に関わると考えられ術前治療、併存症などについて倫理委員会承認後、当院での状況を検討していく予定である。